

科学と社会委員会 メディア懇談分科会（第24期・第3回）

議事要旨

日時：7月19日（木）13：30－14：45

場所：6階6-A(2)会議室

出席者：渡辺委員長、土生副委員長、山極委員、三成委員（スカイプ）

資料に基づき、渡辺委員長より、資料に基づき、前回の議事要旨の紹介後、資料2「日本学術会議からメディアへの発信の現状一覧」の説明があり、資料3「第3回メディア懇談分科会論点」に基づいて、意見交換が行われた。

◆議題（1）学術会議からメディアへの発信の現状確認

（学術会議記者会見・懇親会について）

①頻度

- 記者会見の頻度は年4回程度を予定している。
- 記者公表（貼り出し）の効果を検証するため、今年に入ってから貼り出しに対するマスコミからの反応について次回までに整理する。

②提供話題等

- 広報のターゲットを絞れば絞るほど広報の効果が上がるが、こちらがそのターゲットに向けた最適な広報手段を選んで行う必要があるため、その分手間がかかる点が難しい。例えば、記者懇等の場で、こちらが広報したい内容を記事にしてもらえる記者（または部署）を聞くということもあるのではないか。
- 記者懇の場で記者の興味のある分野、学術会議をテーマに記事を書いているかを聞いてはどうか。
- 記者会見、記者懇の開催前に、各委員会の委員長に記者にリリースする話題があるかを事前に聞いてはどうか。リリースする話題がある場合、その委員長に説明してもらってもよいのではないか。
- 7月22日の定例記者会見における会長及び副会長から提供する話題について意見交換の上、決定した。

③ファシリテーション

○前回の議論で対話になるようファシリテーションをちゃんとしていこうという話があったが、誰がファシリテーションをしたらいいか、設計をする必要もあるので、次回に議論することにした。

○記者の中には記者発表内容に詳しい方がいるとも限らないので、記者会見での配布資料の準備が必要。記者会見では四役から提供する話題について、資料を配布することとした。

◆議題(2) 学術会議から社会への発信の戦略施策について

(プレス等への積極的発信)

○即時性が求められるものの他に、学術会議が出さなければならないテーマを論説委員や科学部等から聞くようにしてはどうか。

○既に行っている委員会もあるが、記者公表前に予告として事前に記者レクを行ってはどうか。

○各委員長が責任をもって積極的に発信してほしい。

(HPの発信)

○HPについて、「文字が多すぎて興味を持ちづらい。内容やレイアウト等が重複しているところが多く、見づらい。」という意見がある。

○どういう層に見てもらいかまで考えてHPを設計できる担当が必要ではないか。

○学術会議のHPをスマホ等に対応できるように、来年度のリニューアルを検討しているところである。

(国際発信)

①大使館との連携 ブリーフィング

○海外の日本大使館のネットワーク利用の検討

○在日大使館への働きかけの検討（共同主催国際会議、アジア学術会議について）

○国際担当副会長と具体的な対応を検討

(SNS対応について)

- SNSは即時的な情報発信については効果的だが、炎上等の危険性があるので使い方については検討が必要
- 会議やシンポジウムの開催等のアナウンス等、危険でない使い方としては効果的ではないか。

◆議題(3)その他

- 本日の論点整理をして、日本学術会議の方針として内部の意見を聞き、それをまたフィードバックする形で次回の分科会で議論していくことで会議は終了。

(以 上)